

教科名	国語科	学 年	3	週時間数	3
使用教科書	「国語3」（光村図書）「新しい書写 一・二・三年」（東京書籍）				
副教材等	「学習漢字ノート3」（浜島書店）「新・基礎の学習 国語3年」（新学社） 「つまづかない！文法の学習」（新学社）「国語便覧」（浜島書店） 「積み上げ」（明治図書）				

教科 の 目 標	<p>○文学作品や説明的文章など様々な文章から、登場人物の思いや作者の心情、物の見方など、必要な情報に着目して要約などを行い、自分の考えを深めることができる。</p> <p>○自分の考えや集めた情報を整理し、発表したり文章にまとめる的確に表現したりすることができ、対話の話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。</p> <p>○日本語の文法、漢字等についての知識を広げ、日常生活において正しく活用できる。</p>			
授業 の 進 め 方	<p>○教科書を中心に授業を進めます。プリントを用いて、グループ活動を行います。 必要に応じて便覧や辞典で意味や語句についての理解を深めます。</p> <p>○「学習漢字ノート」を用いて週1回小テストを行い、基礎学力の定着を図ります。</p> <p>○「新・基礎の学習 国語3年」を使って予習や内容理解の補充を行います。</p> <p>○文法は教科書及び「つまづかない！文法の学習」を用います。 文法事項の定着を図るとともに学習習慣を確立させます。</p>			
観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価	つ け た い ん だ り の 力	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に親しんだり、理解したりすることができている。	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を養っている。また社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	○言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり、深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしている。また生活の中で自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。
	方 法	・漢字テスト ・小テスト（暗唱等） ・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写の知識・技能	・授業における思考・判断・表現（ペア学習、グループ学習の中で） ・定期テスト ・授業プリントの中での思考・表現 ・作文、感想文、スピーチ等	・漢字テスト ・授業における学習態度 ・ワークやプリントへの取り組み ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写（手紙等）
学 習 の ポ イ ン ト	授 業	○言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになるよう。	○積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ○便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。	○仲間に尋ねるなど丁寧にに関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ○配布されたプリント等を整理し、復習につとめよう。
	家 庭	<p>○漢字は何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。</p> <p>○宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。</p> <p>○教科書を何度も読み、プリントを見直して基本となる重点ポイントを理解しよう。</p> <p>○読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。</p>		
定 期 テ ス ト 範 囲	1 学期中間(5月下旬頃)	詩「世界はうつくしいと」・小説「握手」・漢文「学びて時に之を習ふ」		
	1 学期期末(6月下旬頃)	論説「作られた『物語』を超えて」・俳句「俳句の可能性」「俳句を味わう」・随筆「言葉の釣り糸を垂らす」		
	2 学期中間(9月下旬頃)	「実用的な文章を読もう」・詩「挨拶」・小説「故郷」		
	2 学期期末(11月下旬頃)	論説「複数の意見を読んで、考えよう」・古典「和歌の世界、古今和歌集」・古典「夏草一『おくのほそ道』から」		
	学 年 末(1月中旬頃)	詩「初恋」・論説「それでも、言葉を」・随筆「温かいスープ」		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	詩	・描かれた情景を想像しながら読む。詩に込められた作者の思いを捉える。	・「世界はうつくしいと」 ・「握手」
	5	小説	・小説の構成や場面の展開、登場人物の心情を捉える。	
	6	漢文 評論	・漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。 ・文章の構成や論理の展開を捉え、評価する。	・「学びて時に之を習ふ」 ・「作られた『物語』を超えて」
	7	言語 俳句	・四字熟語の構成について理解する。 ・俳句のきまりや表現の特徴を理解する。情景を豊かに想像する。	・「俳句の可能性」 ・「俳句を味わう」
		言語 随筆	・和語・漢語・外来語の定義と使い分けを理解する。 ・筆者の見方に着目し、内容を具体的に読み取り、筆者の思いを捉える。	・「和語・漢語・外来語」 ・「言葉の釣り糸を垂らす」
	9	論説	・文章に表れている筆者のものの見方や考え方を捉える。文章を批判的に読む。	・「実用的な文章を読もう」
	10	詩 小説	・表現の特徴とその効果を理解し、作品を味わう。 ・人物の心情と描写との関連や人物設定など、表現の特徴や工夫を捉える。	・「挨拶」 ・「故郷」
2		言語	・意味と用法、由来を理解する。	・「慣用句・ことわざ・故事成語」
	11	論説	・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもつ。	・「複数の意見を読んで、考えよう」
	12	古文 古文	・和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る。 ・歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉える。	・「和歌の世界— 万葉・古今・新古今」 ・「おくのほそ道」
3	1	詩	・表現の特徴とその効果を理解し、作品を味わう。	・「初恋」
	2	論説	・筆者の主張を捉え、自分の知恵や経験などと照らし合わせながら内容を理解する。	・「それでも、言葉を」
	3	随筆	・筆者の見方に着目し、内容を具体的に読み取り、筆者の思いを捉える。	・「温かいスープ」

教科名	社会	学年	3	週時間数	4
使用教科書	「新しい社会 歴史」(東京書籍) 「新しい社会 公民」(東京書籍)				
副教材等	『公民の完全学習』(正進社) 『歴史の完全学習2・3』(正進社) 「未来へなく歴史資料集」 『学習の達成』公民・歴史2・3(新学社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の社会のしくみについて、意欲的に学び合うことができる。 ○身に付けた知識や資料を読み取った内容を生かして、社会の課題について考え、理解を深めることができる。 ○史料や資料、地図に書かれている内容を読み取ることができる。また、資料を用いてさまざまな形にまとめ、読み取った内容を用いて社会的事象を理解することができる。 ○基本的な知識や正しい理解を身に付け、社会生活に生かすことができる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループでの学び合いを行います。分からないときは聴き、聴かれたら納得するまで説明して支え合いながら学習内容を理解していきます。 ○授業ワークシートを使い学習を進めます。 ○社会のしくみや工夫、現代の課題と取り組みについて考え、疑問点や学んだことをまとめたり、発表したりしていきます。 ○社会的事象への理解を深めるために、他の生徒の意見を聴き、自分の意見と比較して考えます。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の尊厳と人権の尊重、民主政治、国民の生活向上と経済活動、国際関係について理解している。 ○資料から現代の社会的事象に関する情報を調べ、まとめることができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の意味や意義を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察している。 ○現代社会にみられる課題について、公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、議論している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会にかかわろうとしている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・定期テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・定期テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の尊厳と人権の尊重の意義、国民生活の向上と経済活動のかかわりを広い視野から正しく認識しよう。 ○資料から現代の社会的事象に関する情報を調べまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象について、多面的・多角的に考え、課題を公正に判断したり、説明しよう。 ○現代社会にみられる課題について、公正に判断したり、思考判断しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の社会事象について、現代社会にみられる課題の解決を、主体的に追究・解決しようとしている。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ教科書を読み、疑問を持って授業に参加できるようになろう。 ○授業内容を細かく確認し、復習にいかそう。 ○社会の出来事に関心を持ち、新聞やテレビでニュースを読んだり観たりしよう。 ○疑問に思ったことを、本やインターネットなどで調べよう。 ○学んだ内容と日常生活を関連づけて考えよう。 		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	歴史的分野(第5章)		
	1学期期末(6月下旬頃)	歴史的分野(第6章)		
	2学期中間(9月下旬頃)	歴史的分野(第7章) 公民的分野(現代社会)		
	2学期期末(11月下旬頃)	公民的分野(法律分野・政治分野)		
	学年末(1月中旬頃)	公民的分野(経済分野)・実力問題(地理・歴史分野)		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《歴史的分野》		<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新 ・日清・日露戦争と近代産業 ・第一次世界大戦と日本 ・世界恐慌と日本の中国侵略 ・第二次世界大戦と日本
	5		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治、外交、アジア諸国との関係をはじめとする国際関係について理解する。 	
	6	二度の世界大戦と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本の発展と国際社会
	7	現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に復帰するまでの日本の民主化と世界の動きとの関連を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな時代の日本と世界
2	9	《公民的分野》 現代社会と私たち 個人の尊重と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法と政治のしくみと意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と私たち ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障
	10			<ul style="list-style-type: none"> ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち
	11	現代の民主政治と社会		
	12	私たちの暮らしと経済 地球社会と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と経済、生産のしくみと金融について理解する。 ・財政と政府の働きについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉・国際社会の仕組み ・これからの経済と社会
3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際社会の特色と課題について考えを深める。 ・持続可能な社会の実現のために何が必要かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本
	2	3年間の内容の復習		
	3			

教科名	数学	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがる 数学3」 (啓林館)				
副教材等	「数学の問題ノート」 (新学社)				

教科 の 目 標	<p>○数量や図形などについて基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。また、事象を数学的に表現・処理したりすることができる。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することができる。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。また、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとするすることができる。</p>			
授業 の 進 め 方	○学習の定着と理解を深めるために、教科書などの問題に取り組む際、グループ活動など様々な形態を取り入れます			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つ け たい 力	<p>○基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</p>	<p>○数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。</p> <p>○図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。</p> <p>○関数関係の特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。</p> <p>○標本調査で、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。</p>	<p>○数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとするすることができる。</p>
	方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・授業中の問題解決の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業中の問題解決の様子 ・グループでの活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の様子 ・副教材、ノートの内容 ・グループでの活動の様子
	授 業 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ○問題をしっかり解こう ○用語や法則を理解しよう ○間違えた問題は繰り返し挑戦しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を、数学的な表現を用いて説明しよう。 ○自分の考えを周りに伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人の話をよく聴こう。 ○粘り強く学習しよう。 ○わからないところを質問して解決しよう。
	家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した内容はその日のうちにノートの見直しや、ワーク・プリント等で復習しよう。 ○ワークの解説等を利用し、答えに至るまでの式や理由も考えよう。 		
定期 テ ス ト 範 囲	1 学期中間(5月下旬頃)	箱ひげ図とデータの活用(2年)、式の展開と因数分解		
	1 学期期末(6月下旬頃)	式の展開と因数分解、平方根		
	2 学期中間(9月下旬頃)	二次方程式、 $y = ax^2$		
	2 学期期末(11月下旬頃)	図形と相似		
	学 年 末(1月中旬頃)	円の性質、三平方の定理、標本調査とデータの活用		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	式の展開と因数分解	<ul style="list-style-type: none"> 展開や因数分解を理解し、その公式を活用して見通しをもって効率的に活用できる。 	式の展開と因数分解 式の計算の利用 章末問題
	5			
	6	平方根	<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根について理解し、数の概念の理解をいっそう深めるとともに、根号を含む式を処理することができる。 	平方根 根号をふくむ式の計算 平方根の利用 章末問題
	7	二次方程式	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解法を理解し、二次方程式を用いて問題を解決できる。 	二次方程式 二次方程式の利用 章末問題
2	9	関数 $y = ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> 式・表・グラフを活用して問題を解くことができる。 	関数とグラフ 関数関数 $y = ax^2$ の値の変化 いろいろな事象と関数 章末問題
	10	図形と相似	<ul style="list-style-type: none"> 図形の相似の概念を明らかにし、三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解を深め、相似を活用できる。 	図形と相似 平行線と線分の比 相似な図形の計量 相似の利用 章末問題
	11			
	12	円の性質	<ul style="list-style-type: none"> 円周角の定理やその逆、円の性質について理解し、円周角と中心角の関係を活用することができる 	円周角の中心角 円の性質 章末問題
3	1	三平方の定理	<ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理について理解し、それらを実際の問題に活用することができる。 	直角三角形の3辺関係 三平方の定理の利用 章末問題
	2	標本調査とデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> 標本抽出の意味と方法を理解し、標本調査から母集団の傾向を推測することができる。 	標本調査 章末問題
	3	3年間のまとめ		

教科名	理科	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス3」(啓林館)				
副教材等	「理科便覧」(浜島書店)、「たしかな理科の学習」(新学社)、「学習の達成」(新学社)				

教科の目標	<p>○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。</p> <p>○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。</p>			
授業の進め方	<p>○身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けます。</p> <p>○グループでの対話を取り入れ、思考したことを交流しあいながら学習します。</p> <p>○課題の設定、仮設の設定、実験方法の立案、観察・実験、結果の処理、考察・推論の過程を繰り返し、科学的に探究する活動を行います。</p> <p>○教科書を中心に授業を進め、グループ学習を取り入れて知識の定着と理解を深めていきます。</p> <p>○定期テスト以外にも単元テストを行います。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<p>○科学的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な基本操作や記録などの技能を身に付けている。</p>	<p>○科学的な事物・現象から問題を見いだしている。</p> <p>○見通しをもって観察、実験などを行って、得られた結果を分析して、解釈・表現し、科学的に探究している。</p>	<p>○科学的な事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストや実技テスト、単元テスト 観察実験レポートの内容 観察実験の様子 授業での発言内容等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストや単元テスト 観察実験レポートの内容 授業での発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントや振り返りシートの内容 観察実験レポートの内容 観察実験への取り組み方 授業での発言内容 定期テストや単元テスト
学習のポイント	授業	<p>○授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や便覧を活用しながら、知識として定着できるようにしよう</p> <p>○目的や意図を考えながら、観察実験を行おう。</p>	<p>○日ごろから疑問を持つことを大事にしてとことん追究していこう。</p> <p>○観察実験で得られた結果から、どのような特徴や規則性があるのか多方向から考え、分析してみよう。</p>	<p>○授業の内容だけでとどまることなく、「もっと知りたい」「なぜ？」を大事にし、自ら調べて知識を増やしていこう。</p> <p>○仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。</p>
	家庭	<p>○普段からテレビなどで放送される科学的な事象についてのニュースなどに目を向けて、授業で学習した科学的概念とのつながりを意識しよう。</p> <p>○教科書やワークシートをしっかり見返して、学習した内容の理解と定着を図ろう。</p> <p>○授業で習った部分のワークを日々進めていくことで、理解を深めよう。</p> <p>○入試問題等の過去問にチャレンジしよう。</p>		
定期テスト範囲(予定)	1学期中間(5月下旬頃)	・大気の動きと日本の四季 ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子		
	1学期期末(6月下旬頃)	・生物の種類の多様性と進化 ・水溶液とイオン		
	2学期中間(9月下旬頃)	・電池とイオン ・酸・アルカリと塩		
	2学期期末(11月下旬頃)	・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用		
	学年末(1月中旬頃)	・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	生命の連続性	<ul style="list-style-type: none"> 生物のふえ方には、無性生殖と有性生殖の2つがあることを見だし、有性生殖における減数分裂について理解する。 染色体にある遺伝子で形質が伝わり、そしてその伝わり方に規則性があることを理解する。 現存の多様な生物は、過去の生物が進化したものであることを理解する。また、進化の概念を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物のふえ方 細胞のふえ方 親から子への特徴の伝わり方 遺伝のしくみ 遺伝子の本体 生物の共通性と多様性 進化の証拠 生物の移り変わりと進化
	5			
1	6	化学変化とイオン	<ul style="list-style-type: none"> 電解質を理解し、電気分解の実験からイオンの存在を見ださせ、イオンの生成が原子に関係することを理解する。 金属のイオンへのなりやすさを理解し、電池のしくみを説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 電解質、非電解質 電解質の水溶液に電流が流れたときの变化 電気を帯びた粒子の正体 金属のイオン 電池のしくみと日常生活
	7			
2	9	運動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 酸やアルカリの性質がイオンによることを見だし、電離の説明ができるようにする。また、酸とアルカリが反応すると塩と水ができることを見だし、中和反応を説明できるようにする。 重力と浮力のつり合いの関係からしくみを理解し、合力を求めることができる。 物体の速さや運動を調べる方法を身につけ、力と運動の関係を理解する。 仕事の定義を理解し仕事の原理を見だし力学的エネルギーの保存を理解する。 エネルギーの移り変わりを理解し、総量が一定に保たれることを理解する。 エネルギー資源を確保し安全で有効な利用と環境保全をはかることを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸性やアルカリ性の性質 酸性・アルカリ性の強さ 酸とアルカリを混ぜたときの变化 イオンで考える中和 水中の物体にはたらく力 力の合成・力の分解 運動の表し方と運動 物体間での力 仕事・エネルギー 力学的エネルギー エネルギーの種類 エネルギーの変換と保存 生活を支えるエネルギー 利用上の課題と有効利用
	10			
	11			
2	12	宇宙を観る	<ul style="list-style-type: none"> 惑星と恒星の特徴や太陽系の構造を理解し、太陽の観察の技能を身につける。 日周運動が自転によること、地球の公転と地軸の傾きとも理解する。 月や金星の見え方を月や金星の公転と関連づけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球、月、太陽 太陽系・宇宙の広がり 太陽の動き 星座の星の動き 月の動きと見え方 金星の動きと見え方
	1			
3	1	自然と人間	<ul style="list-style-type: none"> 植物と動物、微生物がつり合いを保って生活していることを見だし理解する。 日常生活や社会で、物質の再利用などが大切であることに気づく。 科学技術の発展・利用が生活を豊かで便利にしていることを認識し、検討する。 人間が自然環境に影響を与えていることを理解し、自然環境の保全を考える。 持続可能な社会の重要性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物どうしのつながり 生物の数量的関係 分解者・物質の循環 天然の物質と人工の物質 プラスチック 科学技術の発展の歴史 科学技術の利用と暮らし 身近な自然環境と影響 人間の活動と自然環境 科学技術の発展と課題 これからの社会を担う
	2			
	3			

教科名	音楽	学 年	3	週時間数	1
使用教科書	「中学生の音楽2・3下」(教育芸術社)				
副教材等	「音楽のハーモニー」(正進社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲の美しさを感じ取りながら音楽の構造や背景との関わりを捉えて理解し、表現や鑑賞に生かすことができる。 ○音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、どのように音楽表現するかについて知識や技能を生かしながら、思いや意図をもつことができる。 ○様々な体験を通して音楽に対する興味・関心を養い、生活をより明るく豊かにする態度を身につけることができる。 		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な音楽に興味・関心をもてるよう、幅広いジャンルの曲を扱います。 ○グループ活動を取り入れ、みんなで助け合い、工夫し合いながら学びを深めます。 ○年間を通して歌唱・鑑賞・器楽・創作の授業を行います。 		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ○音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験している。 ○音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養っている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・実技テスト ・各活動への取り組み方 ・副教材、ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動への取り組み方 ・言動の意欲 ・副教材、ワークシートの内容
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○普段から話をしっかり聴き、音楽の記号や用語を覚えて表現に生かそう。 ○それぞれの曲の時代背景や音楽の仕組みを覚えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱や器楽では、曲にあった表現を工夫しながら堂々と演奏できるようにしよう。 ○音楽を心で聴き、よさや美しさを感じ取れるよう常に意識しよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○普段からテレビなどで流れているクラシック、ポップスや伝統音楽など、様々な音楽を聴くことを心がけ、授業で学習する曲とのつながりを見つけて学びを深めよう。 ○実技は、頭の理解だけでは難しいので、時間や場所を考えて練習しよう。 	
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)		
	1学期期末(6月下旬頃)	1学期で学習した内容	
	2学期中間(9月下旬頃)		
	2学期期末(11月下旬頃)	2学期で学習した内容	
	学 年 末(1月中旬頃)	1年間で学習した内容	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・歌声づくり	・堂々と歌う。周りの音を聴き合い、お互いの声を認め合う。	・既習曲
	5	・日本の名曲	・歌詞の内容から情景を思い浮かべる。言葉を大切にし、表情豊かに歌う。	・花
	6	・交響詩の鑑賞	・情景の移り変わりがどのように音楽で表現されているかに注目して聴く。	・ブルタバ（モルダウ）
	7	・合唱コンクールに向けて	・それぞれのパートの役割を考え、歌詞の意味を加味した表現を工夫し歌う。	・合唱コンクールの課題曲、自由曲選曲
2	9	・合唱コンクールに向けて	・周りのパートの音を聴きながら歌い、クラスで1つのものを創り上げる達成感を味わう。	・合唱コンクールの課題曲、自由曲（文化祭まで）
	10			
	11	・創作	・歌詞の抑揚を生かしたリズムや音をつないで曲を創ることができる。楽譜に対しての知識や教養を深める。	・自作曲
	12	・器楽	・アルトリコーダーや箏に親しみ、器楽への理解を深めて演奏に生かす。	・既習曲他
3	1	・日本の伝統芸能の鑑賞	・伝統音楽の魅力を味わう。	・能
	2	・卒業に向けて	・歌詞の内容を読み取って表現を工夫し、卒業生としてふさわしい態度や歌声を追求する。	・卒業式の歌
	3			

教科名	美術	学年	3	週時間数	1
使用教科書	「美術 2. 3」 (光村図書)				
副教材等	「美術資料」 (秀学社) 「レタリング字典」 (秀学社)				

教科の目標	<p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。</p> <p>○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>○主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。</p>			
授業の進め方	<p>○作品制作を通して、見通しをつけながら作業に取り組むようにします。</p> <p>○基本的な技術を身につけ、制作に応用できるようにします。</p> <p>○作品の制作の他、知識や技能を幅広く身につけられるようにします。</p> <p>○感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現のよさ、美しさを感じ取る心を養います。</p> <p>○表現方法の異なる作品の鑑賞することにより、いろいろな表現方法に気づき、深めます。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</p> <p>○意図に応じて自分の表現方法を追求し、造形的に表している。</p>	<p>○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>○美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動の取り組みようとしている。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動への取り組み方 ・アイデアスケッチやワークシートの内容
学習のポイント	授業	<p>○対象をよく観察し、ものを見る目を養い、考える力をつけよう。</p> <p>○様々な表現方法に挑戦し、技能を身につけ自己の表現につなげ、試行錯誤しながら表現の幅を広げよう。</p>	<p>○美術作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ろう。</p> <p>○表現の意図や機能性など、美術の働きや社会の中の美術を考えよう。</p> <p>○アイデアや感じたことを書き留め制作の基礎をつくらう。</p>	<p>○どの分野にも意欲的に取り組みよう。</p> <p>○仲間の考えや意見を尊重し、認め合いながら美術への感性を高めていこう。</p>
	家庭	<p>○制作に必要な準備物を考えて用意し、完成までの見通しをもって家庭でも自主的に制作しよう。</p> <p>○芸術や美術に興味を持ち、美術館等に足を運び、展覧会などを鑑賞しよう。</p> <p>○日頃より様々な分野の表現活動に興味を持ち、作品につなげていこう。</p>		
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)			
	1 学期期末(6月下旬頃)	1 学期で学習した内容		
	2 学期中間(9月下旬頃)			
	2 学期期末(11月下旬頃)	2 学期で学習した内容		
	学 年 末(1月中旬頃)	1 年間で学習した内容		

学期	月	単 元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《デザイン分野》 ・そっくりにつくろう ・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・らしさを表現するために様々な工夫をし、リアリティを追求することができる。 ・色や形の効果を理解し、イメージにあった選択ができる。 ・イメージをデザインし、粘土などを使い立体にすることができる。 ・多角的に見た立体物を想像することができる。 ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・対象物の材質を理解し、質感を表現することができる。 ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・作品制作計画 ・仕上げ ・名画を鑑賞
	5			
	6			
	7			
2	9	《デザイン分野》 ・錯覚作品 ・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・錯覚の効果を理解し、作品にいかすことができる。 ・基本的な構成の仕方を理解し、イメージに合った構成ができる。 ・イメージに合った画面構成ができ、配色にも自分の表現ができる ・基本的な立体形のとらえ方がわかり、形、明暗を工夫し平面に表現することができる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・作品の質をより高めるために配色計画や着色が丁寧で美しくできる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・友達や身近な人の作品を鑑賞することで、作品の良さや美しさを感じるとともに、表現に表された工夫や、さまざまな技法の使い方を発見し、お互いの良さを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・下書き ・着色 ・仕上げ ・友達の作品の鑑賞
	10			
	11			
	12			
3	1	《デザイン分野》 ・卒業制作	<ul style="list-style-type: none"> ・素材の特徴を活かしデザインを考えることができる。 ・テーマに基づき自分なりに考え、自由に発想することができる。 ・作業工程を理解し、確実に進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・仕上げ
	2			
	3			

教科名	保健体育	学 年	3	週時間数	3
使用教科書	中学校保健体育（学研）				
副教材等	「体育実技」（学研） 「保健資料ノート」（正進社）				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の合理的な実践を通し運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身に付けることができる。 ○自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむことができる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間準備運動をしながら、体力づくりと怪我の予防をしていきます。 ○各種目の基本的な動作や技術の練習をして、技能の向上を図り、記録を測りながら、自己の課題の達成度を図ります。 ○グループ活動を積極的に取り入れ、自分たちで課題発見・解決できるような環境をつくります。 ○準備や片付けなど互いに協力してできるようにします。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫している。 ○自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。 	
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動への言動 ・ワークシートの内容（思考） ・体操への取り組み方 ・技能テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動への参加 ・ワークシートへの取り組み方 ・授業への取り組み方 	
	学習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの課題を考え、上達するために努力する意欲を持つよう。 ○粘り強く種目に取り組もう。 ○知識を技能に結び付けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの課題を持ち、学ぶ意欲を高めよう。 ○グループ活動において、成果が生まれるような働きかけや思考力を身に着けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体操服・ファイル・図解体育・保健体育教科書を必ず用意しよう。 ○グループ活動に主体的に参加しよう。 ○健康・安全に留意し行動できるようにしよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の健康管理に努めよう。 ○プリントの内容を理解し覚えよう。 ○体育実技や保健体育の本を読み学習を深めよう。 		
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)			
	1 学期期末(6月下旬頃)	集団行動 ラジオ体操 選択種目 感染症の予防		
	2 学期中間(9月下旬頃)			
	2 学期期末(11月下旬頃)	選択種目 個人の健康を守る社会の取組		
	学 年 末(1月中旬頃)	選択種目 1年間の保健分野		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容	
1	4	体づくり運動 体育に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> • 自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体力を高めたりすることができるようにする。 • 実生活に生かす運動の計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ラジオ体操第1 • 集団行動 • 体力を高める運動 • 体ほぐし・体力の意義 • 新体力テスト 	
	5	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> • 自らの健康について考え、感染症について理解を深める。さまざまな感染症について深く考えることで実生活に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感染症の予防 	
	6	陸上競技Ⅰ 器械運動Ⅰ	選択種目	<ul style="list-style-type: none"> • 仲間同士で協力しあい技能向上の楽しさや喜びを味わう。 • 自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるように技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 走種目 • マット運動
	7				
2	9	陸上競技Ⅱ 器械運動Ⅱ	選択種目	<ul style="list-style-type: none"> • 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 跳躍・投てき種目 • 跳び箱
		ダンス 球技Ⅰ		<ul style="list-style-type: none"> • 創作ダンス • ソフトボール 	
	10	個人の健康を守る社会の取組	<ul style="list-style-type: none"> • 健康のために働きかける取組について理解し、今後の生活に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人の健康を守る社会の取組 	
	11	球技Ⅱ	選択種目	<ul style="list-style-type: none"> • 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、自己の記録を伸ばす工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • バスケットボール • サッカー
12	陸上競技Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> • 自己の能力を把握し、持久力の向上と自己管理能力の向上を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> • 長距離走 	
3	1	球技Ⅲ 武道	選択種目	<ul style="list-style-type: none"> • みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ソフトテニス • 剣道
	2	球技Ⅲ		選択種目	<ul style="list-style-type: none"> • 自己の技能を向上させ、自己の役割を把握し、互いに協力し合い、安全に留意しながらゲームを進めることができる。
	3				

教科名	技術	学 年	3	週時間数	0.5
使用教科書	「New 技術・家庭 技術分野」(教育図書)				
副教材等	「生物育成の技術 技術分野ワークノート」(地域教材社) 「情報の技術 技術分野ワークノート」(地域教材社)				

教科の目標	○実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成する。		
授業の進め方	○ワークノートを中心に教科書なども活用しながら学習を進めます。学習形態は4人程度のグループで進めていきますので、わからないことや困ったことはまずはグループで相談して解決を目指しましょう。ただし作業の場面では安全面を考え、わからないことや自信がないことは先生に確認しましょう。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけたい力	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	方法	・知識については主に定期テストをもってその定着を確認し、評価します。技能については技能テストや作業の確認などを、主に授業中に行い評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。
学習のポイント	授業	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。
	家庭	○学習内容を実生活で生かし、より豊かな生活を創造しましょう。	
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)		
	1 学期期末(6月下旬頃)	「生物育成の技術」にかかわる内容から出題します。	
	2 学期中間(9月下旬頃)		
	2 学期期末(11月下旬頃)	「生物育成の技術」と「情報の技術」にかかわる内容から出題します。	
	学 年 末(1月中旬頃)	1・2学期に学習した内容から出題します。	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	〈生物育成の技術〉	〈生物育成の技術〉 ・生物の育成にかかわる内容について学習します。 ・目的をもって計画的に生物の育成をします。	〈生物育成の技術〉 ・生物を育てる技術を見つけよう ・生物を育てる技術を知ろう ・生物育成の計画を立てよう ・計画に沿って作物を栽培しよう
	5			
	6			
	7			
2	9	〈情報の技術〉	〈情報の技術〉 ・計測・制御システムについて学習します。	・生物を育てる技術の工夫を調べ考えよう ・社会の発展と生物育成の技術 〈情報の技術〉 ・計測・制御システムの技術を知ろう ・計測・制御システムの設計のしかたを知ろう
	10			
	11			
	12			
3	1		・計測・制御システムの設計製作をし、身近なコンピュータを利用した機器の働く仕組みを考えます。 ・1年間の学習をふり返り、実生活に生かす態度を養います。	・設計に沿った計測・制御システムを製作しよう ・社会の発展と情報の技術 ・1年間の学習で学んだことをまとめよう
	2			
	3			

教科名	家庭	学年	3	週時間数	0. 5
使用教科書	New 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する (教育図書)				
副教材等					

教科の目標	<p>○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解をし、それらに関わる技能を身につけることができる。</p> <p>○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うことができる。</p> <p>○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につけることができる。</p>			
授業の進め方	<p>○より良い生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中で色々な課題を解決する方法を学びます。</p> <p>○実習は班で協力して進めます。その過程で工夫し、創造する能力や物を作る技術を習得します。レポートにまとめるので期日までの提出があります。</p> <p>○家庭科プリント（ファイル）提出や宿題があります。自分で調べたりしながら完成させ、期限を守って提出しましょう。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<p>○家庭の基本的な機能及び家庭について理解している。</p> <p>○幼児、高齢者について理解し技能を身に付けている。</p> <p>○生活に必要な衣食住について理解し技能を身に付けている。</p> <p>○消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立について基礎的な理解をし、技能を身に付けている。</p>	<p>○生活課題について他の生活事象と関連付け、多角的に捉え、解決策を考えることができる。</p> <p>○実習や観察、調査、交流活動の結果等について、考察し、論理的に表現することができる。</p> <p>○他者の意見との相違点や共通点から、計画・実践について評価・改善することができる。</p>	<p>○地域の人々と関わり、協働しようとする態度を養っている。</p> <p>○生活を楽しみ、豊かさを味わい生活をよりよくしようとする態度を養っている。</p> <p>○日本の生活文化を継承しようとする態度を養っている。</p> <p>○将来の家庭生活や職業との関わりを考え学習に取り組むことができる。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 実習・課題の取り組み方 作品 ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品 	<ul style="list-style-type: none"> 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品
	授業	<p>○普段から話をしっかり聴き、生活に必要な知識を覚え、技能を身に付けよう。</p>	<p>○生活課題について、学習した知識や技能を利用し解決できるように考えよう。</p>	<p>○どの分野にも意欲的に取り組もう。</p> <p>○仲間の考えを尊重しあい、学習に取り組もう。</p>
	ポイント	<p>○学習した内容を生活の中に取り入れよう。</p> <p>○実習の前は、手順などをしっかり確認してこよう。</p> <p>○生活に関するテレビの特集や新聞・雑誌を見よう。</p> <p>○レシピ集を積極的に取り組み、提出しよう。</p>		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)	住生活と自立		
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)	私たちの消費生活と環境		
	学年末(1月中旬頃)	1年間で学習した全範囲		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・私たちの住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内事故から家族を守ろう ・災害に備えた安全な住まい方を考えよう ・家族が暮らしやすい住まい方を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内事故 ・安全な住まい ・自然災害への備え ・平面図設計
	5			
	6			
	7			
2	9	・私たちの消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物をふりかえってみよう ・買い物の法律的な意味を知ろう ・販売方法、支払い方法を知ろう ・消費者トラブルを防ごう ・消費者を支える仕組みを知ろう ・消費者の権利について考えよう ・消費者の責任について考えよう ・消費生活が社会に与える影響を考えよう ・環境に及ぼす影響を考えて行動しよう ・地域の食材を生かした調理をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定のプロセス ・表示やマーク ・契約 ・販売方法の種類と特徴 ・支払方法の種類と特徴 ・悪質商法 ・消費者を守る法律や相談機関 ・クーリング・オフ ・8つの権利と5つの責任 ・グリーンコンシューマー ・家庭での省エネルギー ・地域の食材の良さ ・地域の食文化 ・地産地消 ・調理の計画と実習
	10			
	11			
	12			
	1			
2				
3				

教科名	英語	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「NEW HORIZON English Course 3」(東京書籍)				
副教材等	「JOYFUL WORK BOOK」(新学社) 「英語パーフェクトノート」(学宝社) 「絶対評価プリント 英語3年」(教育同人社) 入試リスニング(正進社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。 ○社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができる。 		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような状況で新出文法を使うか考えていきます。 ○コミュニケーションの力を身につけるため、ペアワークなど様々な授業形態・方法を取り入れ、仲間の意見にふれ、自分の意見を深めていきます。 ○ALTを交えた授業を定期的に行っていきます。 ○正確な発音やリスニングの力を身につけるため、単語や英文のリピーティング学習に声を出して取り組みます。 ○家庭学習を促し、定着度合を確認するため、問題集やプリントを用いて復習や単語、単元テストを行います。 		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして場面や状況に応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしようとしている。 ○「聞くこと」、「話すこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして場面や状況に応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えようとしている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト ○単元テスト ○定期テスト ○各種パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における表現活動 ○授業プリント ○小テスト ○単元テスト ○定期テスト ○各種パフォーマンステスト
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「読むこと」において、必要な単語や文法事項を覚えよう。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりすることを大切にしよう。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等の必要な情報や概要、要点などを捉えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで、英語を用いてコミュニケーションを図ろう。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりすることを大切にしよう。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等の必要な情報や概要、要点などを捉えよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを使って、単語や基本文を声に出しながら練習したり、英作文を自分で考えて書いてみよう。 ○ワーク、プリントなど、毎回の宿題を忘れずに取り組もう。 ○単語テストや定期テストに向けて、コツコツと勉強に取り組もう。 ○映画や音楽など普段から英語に関心を持ち、英語に触れる機会を増やそう。 	
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	Unit 0, Unit 1, Real Life English 1, Unit 2, Real Life English 2	
	1学期期末(6月下旬頃)	Unit 3, Real Life English 3, Stage Activity 1, Let's Read 1	
	2学期中間(9月下旬頃)	Unit 4, Real Life English 4, Unit 5	
	2学期期末(11月下旬頃)	Real Life English 5, Stage Activity 2, Unit 6, Real Life English 5, Stage Activity 3	
	学 年 末(1月中旬頃)	Let's Read 2, Let's Read 3, 入試に向けての練習(プリント等を使って)	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	Unit 0	<ul style="list-style-type: none"> • これまでに学習した内容の復習。 • 英語の語の仕組みを学ぶ。 • 日本のポップカルチャーについて、経験や感想と共に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 語い・表現の増やし方 • 現在完了（経験用法）
		Unit 1		
	5	Real Life English 1	<ul style="list-style-type: none"> • ディスカッションを聞き、自分の意見をまとめるために必要な情報を理解することができる。 • 人や環境にやさしいファッションの取り組みについて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現在完了（完了用法） • 現在完了（継続用法） • 現在完了進行形
		Unit 2		
	6	Real Life English 2	<ul style="list-style-type: none"> • 社会的な話題に関する講演を聞き、話し手の伝えたい内容を理解することができる。 • 現在完了形，現在完了進行形の復習。 	<ul style="list-style-type: none"> • It is (for人) to • want 人 to • let 人 動詞の原形
		Grammar for Communication 1		
	7	英語の歌 1	<ul style="list-style-type: none"> • 絶滅のおそれのある動物について知り，大切なことや取るべき行動について伝えることができる。 • 資料から読み取った情報について，事実と意見を分けて書くことができる。 	
Unit 3				
	Real Life English 3	<ul style="list-style-type: none"> • 日本や郷土の文化などについて，詳しい情報を加えて説明することができる。 • 物語を読んで，場面の変化や登場人物の心情などを理解し，気持ちを込めて音読することができる。 		
	Grammar for Communication 2 Stage Activity 1			
	Let's Read 1			

2	9	英語の歌 2 Unit 4	<ul style="list-style-type: none"> 防災・安全への意識を高め、地域の一員として取るべき行動を考えて伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関節疑問文 SVOO (what節) 現在分詞、過去分詞 	
	1 0	Real Life English 4	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり応じたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接触節 関係代名詞 who 関係代名詞that [which] (主格・目的格) 	
		Unit 5	<ul style="list-style-type: none"> ガンディーの功績を知り、平和や人権の意味について考えることができる。 		
	1 1	Real Life English 5	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題について、理由や根拠を含めて自分の意見を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法 (I wish ...) 仮定法 (If 主語) 	
		Grammar for Communication 3			
	1 2	Stage Activity 2 英語の歌 3	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験をふり返って活動報告を発表することができる。 		
		Unit 6	<ul style="list-style-type: none"> 国をこえて助け合うことの大切さを知り、願いや思いを伝えることができる。 		
	1 2	Real Life English 6	<ul style="list-style-type: none"> ニュースなどのテレビ番組の音声を聞いて、概要や要点を理解することができる。 		
		Grammar for Communication 4			
		Stage Activity 3	<ul style="list-style-type: none"> 主張とその理由を明確にしながら、ミニディベートをすることができる。 		
3	1	Let's Read 2 入試に向けた練習(1)	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー問題に関する説明文を読んで、概要を理解し、自分の考えや意見を述べるすることができる。 伝記を読んで、人物の歩みや功績を読み取り、自分の感想を述べることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の総復習
	2	Let's Read 3 入試に向けた練習(2)			
	3	入試に向けた練習(3)			
		入試に向けた練習(3)			